

『獨協大学外国語教育研究所紀要』

第12号の刊行によせて

外国語教育研究所所長
浅岡 千利世

獨協大学外国語教育研究所の研究所紀要も第12号を発刊することができました。これも2011年度に新しく外国語教育研究所（通称 AMANO 研）として再スタートして以来、ひとえに関係の皆様方のご支援とご協力の賜物と深く感謝申し上げます。

2023年度は対面授業が増え、元通りとはいえないまでもキャンパスに留学生を含む多くの学生が戻ってきました。また2020年度にコロナ禍で入学し、外国語の授業を含め多くの授業を遠隔で受けた学生たちが最後にキャンパス生活を満喫できた一年でもあります。本研究所の第13回公開講演会「日本に複言語主義は必要か？—ヨーロッパとの対比で—」（講師：境一三氏、本学外国語学部特任教授）も研究所としては初めてのハイブリッド形式による開催を試みました。対面でも多くの方が大学に足をお運びくださり、同時に、関東地方以外の遠隔地からも多くの参加者を得て、質問や意見が活発に寄せられました。こちらのご講演の内容は本紀要にてご覧いただけます。また、2024年2月に行われた第13回高等学校外国語教員との懇話会は引き続きオンラインで開催し、高等学校と大学の外国語の授業、特に生成AIがこれからの教授法や教育内容に与える影響について充実した意見交換ができました。

紀要に関しましては、外国語教育に関する3本の論文、1本の実践報告および1本の研究ノート計5点を掲載できる運びとなりました。大学は教育と研究の場であり、研究の成果がよい教育の基礎となります。研究員または本大学の教員それぞれが自由に外国語教育に関する研究成果を発表し、広く研究・教育界にその意義を問う場として紀要は重要な役割を果たしています。

執筆者の皆様をはじめ、査読をいただいた先生方および紀要編集委員会の委員の皆様のご協力によってここに第12号を刊行することができますことに心から御礼を申し上げます。また、本紀要をお読み頂く皆様方の忌憚のないご意見を賜りますと幸いです。